

令和6年度第1回宇都宮市学校運営協議会の試行的導入事業に係る検討会議 会議録

■ 日 時 令和6年8月22日（木）13時30分～15時00分

■ 会 場 宇都宮市役所教育委員室（本庁舎13階）

■ 出席者

委 員：松村 啓子 会長、福田 治久 副会長、飯沼 貞臣 委員、石井 大一朗 委員、岩崎 充延 委員、金田 操 委員、河内 哲也 委員、釤持 幸子 委員、佐藤 要 委員、高田 玄 委員、東原 定雄 委員、峯村 賢司 委員、山本 和紀 委員、

事務局：教育長、学校教育担当次長、学校教育課長、生涯学習課長、学校教育課指導G係長、学校教育課指導G担当、生涯学習課家庭教育・地域人材G担当

■ 会議経過

1 開会

2 教育長あいさつ

3 委員紹介

4 「宇都宮市学校運営協議会の試行的導入事業に係る検討会議」の役割について (資料、別紙1)

5 議事

(1) 会長、副会長の選出について

委員の互選により、会長には 松村 啓子 委員、副会長には 福田 治久 委員を選出した。

(2) 学校運営協議会の試行的導入事業について (資料、別紙2、3)

報告事項 (要旨)

委 員：「宇都宮市学校運営協議会の試行的導入事業」のモデル校に応募した学校は無かったということだが、相談や問合せはあったか。

事 務 局：事業内容について、2、3校からの問合せがあった。
(学校教育課)

委 員：モデル校での試行的導入の検証後、CSの導入となった場合、導入は全校一斉か、又は段階的に導入するのか。

事 務 局：変更があるかもしれないが、モデル事業の計画当初は、全校が同じタイミングで導入することを想定していた。

委 員：対応に無理が生じないよう、小学校で導入してから中学校に導入など、一斉ではなく段階的に導入することも考えられる。

委 員：CSを導入せず、現在の魅力ある学校づくり地域協議会を継続すると

いうこともできるということだが、その判断は恒久的なものか。

事務局：モデル校での試行的導入の検証後、CSを導入しないとなった場合は、
(学校教育課) 当面は現在の状況を維持していくことになる。ただし、必ずしも恒久的というわけではない。

委員：事務局として、CS導入の有無について方向性は定まっているのか。

事務局：導入の有無については、事務局としてフラットに考えているので、どちらかにしていくという方向性があるわけではない。

委員：児童数が少ない小学校の負担が危惧されるため、中学校でのみ導入することも考えられるのではないか。

委員：CSに移行した場合、国からの助成はあるのか説明願う。

事務局：現在、魅力ある学校づくり地域協議会が受けている助成が継続する。
(生涯学習課)

委員：職員の配置に係る意見を述べられることについて、想定される具体的な内容を説明願う。

事務局：学校の基本的な方針の実現に向け、学習指導や児童生徒指導など、専門的に指導できる教員の配置を希望するような意見が想定される。なお、特定の個人に関する意見は認めていない。

会長：魅力ある学校づくり地域協議会の委員数は様々だと聞いており、学校運営協議会の委員数は10～15人と図に示されているが、説明願う。

事務局：資料の図は、CSを導入している自治体の状況に基づいている。モデル事業においては人数を規定しないが、CSを全校に導入する場合には、人数を検討することも考えられる。

副会長：中学校は小学校区の集合体のため、小学校よりも委員の人数が多くなるが、モデル校に指定された場合に、委員構成はこれまで通り継続できるか。

事務局：モデル校では、現状の委員構成を継続できる。
(学校教育課)

委員：魅力ある学校づくり地域協議会の活動費はCSになると変わらぬのか。

事務局：委託料はこれまでどおりである。
(生涯学習課)

委員：委託料の使途に制限があり、不便を感じことがある。

事務局：国の補助事業の基準に基づき事業を実施していることに御理解いただきたい。
(生涯学習課)

(3) モデル校の選定・指定について（資料、別紙2、3） 報告事項（要旨）

委員：魅力ある学校づくり地域協議会の委員構成に着目してモデル校を選定することも考えられるのではないか。

委員：学校からモデル校の希望に手が挙がらなかった理由として考えられることがあるか。

事務局：学校には、活動内容が大きく変わるわけではないことを説明してきた
(学校教育課) が、魅力ある学校づくり地域協議会がCSの機能をもつことで負担が増すというイメージを学校にもたれないと想定される。活動の活性化が期待できると伝え、活動がよりよくなるということをアピールしていく必要があった。

委員：委員の報酬額が十分ではないと感じる。

委員：応募について校長と相談した中では、今まで以上に地域の方の関わり

が増えてくると考えた。学校としては、学校運営の基本方針について委員に納得し、承認してもらえるかという心配もあるだろう。

委 員：検証に向けて調査研究を行うポイントを、今後、協議し、事務局がお願いしたいところに依頼すればよい。

副 会 長：地域性が多様であることを踏まえ、モデル校数が4校で足りるかという懸念があるので、増やしてもよいのではないか。

会 長：増やすことは可能であるか。

事 務 局：モデル校数について再検討する。
(学校教育課)